

2018年
3月10日

No.232

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協2018春闘学習会

金融機関に押し寄せている再編の攻撃に対峙できる力を

2月10日から11日にかけて、京都・石長松菊園で近畿地協2018春闘学習会が開催されました。豪雪やインフルエンザなどの影響により、一部のなかまが参加できませんでしたが、17人が、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

主催者を代表して岡野議長は、「今、金融機関に押し寄せている再編の攻撃に対峙できる力を養っておかなければならない。官邸主導で進められている『働き方改革』の本質を見極めて、働く者の立場から真の働き方改革に取り組んでいくこと、マイナンバー制度など金融を取り巻く情勢をみんなで共有化し、経営にも意見具申ができる力を付け、職場でも一目置かれる存在になっていくこと、地域経済のために尽力できる力を養い、人工知能にできないレベルの高い仕事をしていくこと、などを強調。自分たちが人間らしい働き方をして、私たちの春闘に取り組むために十分学習しよう」とあいさつしました。

講演は、全労連常任幹事の斎藤寛生氏が「18春闘をめぐる情勢と課題について」と題して行ないました。(概要は次頁)

講演を受けて、分散会では自己紹介、講演の感



挨拶をする岡野議長

想や生活と職場の実態、春闘の取り組み、リスク商品のノルマ販売の実態、パワハラ・メンタルヘルス、不払い残業、高い離職率問題、そもそも賃金とは何か、などについて話し合いました。

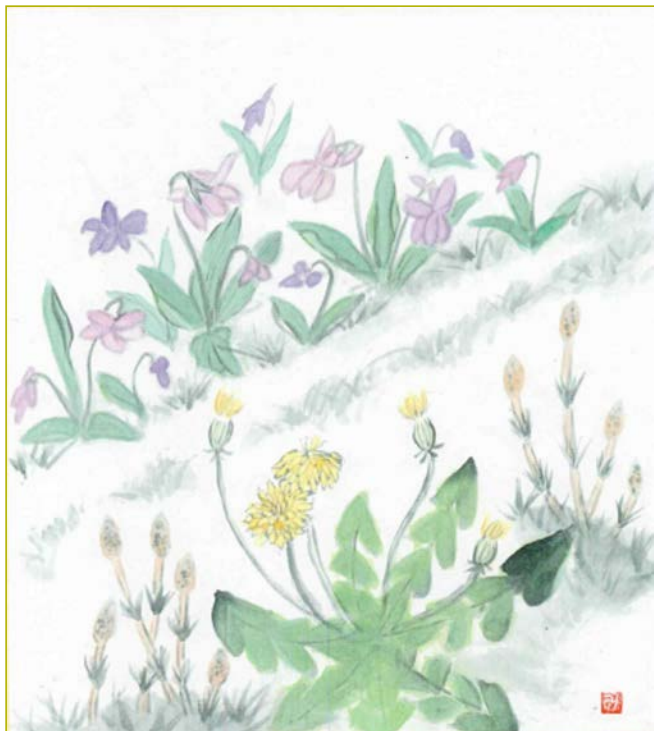
交流会では、賞品争奪クイズ大会などもあって、大いに盛り上がり、交流を深めました。

感想

講師の斎藤氏は、全労連の賃金公契約対策局長や国民春闘共闘委員会事務局次長をしておられ、多くの情報のもとに、具体的にわかりやすく講演いただき、わかりやすかった。

18春闘は激動の情勢で正念場のたたかいだといことがよくわかった。まさに労働組合の存在意義が問われる春闘だ。

安倍9条改憲改悪反対のたたかいと労働法制改悪反対、持続可能な循環型地域経済社会を求める共同をつくっていきたい。



春の野

岩波 美智子さん 画

石長松菊園は、木戸孝允(桂小五郎)の屋敷跡にあり、「松の雅号である。入口に石碑があり、フロントには木戸孝允の肖像写真、掛軸、扇面の書などが飾られ、当館東側に、公邸が残っている。



2018年
国民春闘

あきらめず やるべきことをやり 要求実現を

改憲反対の共同を広げ改憲策動に終止符を

安倍首相は、自公政権が3分の2の議席を維持したことで、憲法9条をより強硬に改憲しようとしている。今、取り組んでいる「安倍9条改憲NO! 3000万人署名」の意味は、安倍首相が「国民多数」と言っている自民党の得票数2800万を上回る署名を集めれば、どちらが多数か明らかになるという意味だ。

安倍首相は、憲法9条3項に「自衛隊」のことを書き加えても「何も変わらない」と言っている。後からくつついたものが前の条文を否定するのは、労働基準法を見ても明らかだ。

改憲発議をさせないために、改憲反対の共同をさらに広げ、改憲策動に終止符をうつため、すべての組織と組合員の力を結集してたたかいをすすめる必要がある。

人間らしい暮らしができる賃上げを

大企業の内部留保は、20年間で、2.34倍。労働者の平均年収は、51万円も減った（下グラフ）。消費購買力は低迷している。

労働分配率は過去20年間で大きく低下し、OECD加盟国よりも大幅だった（右下グラフ）。安倍政権発足後、「雇用の流動化」のもとで、非正規労働者への置き換えがすすみ、「結婚の壁」といわれる年収300万円以下の労働者は、全体の4割を超えた。

「人間らしい暮らし」ができる水準はいくら

か。先進国の最低賃金は月収20万円が一般的である。誰もが8時間働けば人間らしい暮らしができ



る賃上げを実現しよう。

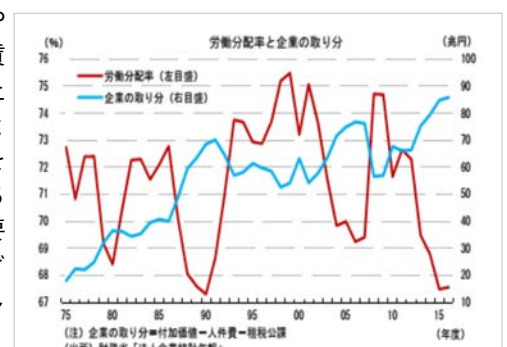
正社員ゼロ・労働法で守られない働き方を狙っている

労働者に不安定な雇用と長時間労働を押し付け、さらに追い打ちをかけようとする安倍「働き方改悪」。20年後には正社員ゼロ、労働法で守られない働き方を一般化しようとしており、こちらも危険きわまりない。

今は、月の残業が80時間で民法の公序良俗違反により損害賠償請求ができるのに、安倍働き方「改革」で月残業100時間OKという法律ができれば、80時間で過労死した人は、公序良俗に反しなくなって、労災認定もできなくなってしまう。

勤労国民の生活と権利を守り 賃上げ・底上げ要求の実現を

広範な勤労国民の生活と権利を守り、賃上げ・底上げ要求の実現、国民要求の実現を求めてたたかってきた国民春闘の歴史に確信を持ち、その役割を発揮する立場で、あきらめず、やるべきことをやりきり、賃上げ・底上げをかちとる。怒りをもって立ち上がり、要求実現めざして奮闘しよう。



ひととき

京都の地下鉄京都市役所前から春闘学習会の会場である石長松菊園へ行く高瀬川沿いに「一之船入」という史跡があった。

近世京都の経済発展に尽くした二条と伏見をつなぐ高瀬川水運は嵯峨の豪商、角倉了以（1554～1614）により計画、施工された。約8mの川幅を持つ運河は、この二条から伏見まで11km余りの全長があり、二条と四条の間に9カ所の船入が作られた。国の史蹟に指定されているのがこの「一之船入」である。この交通の大動脈の完成により京都と商都浪速が直接水運で結ばれ人や荷物の活発な往来に寄与しました。ここから南へ高瀬川沿いに桜並木が続いている。

近くに「高瀬川 舟入の灯影に明るく

春の雪

乙郎」の句

碑があった。

森鷗外の小

説「高瀬川」

「罪人を輸

送る高瀬

舟での話」

を思い浮か

べ、会場へ

急いだ。

